

せわやがとカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL 099-227-9771

南北160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

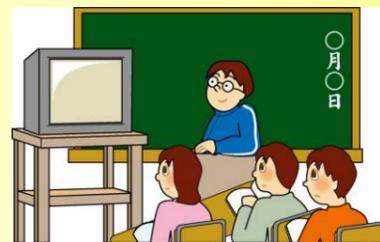
2月…教師ががんばれば子どもが変わる 教育長 有村 孝一

今年も例年のように、日置・鹿児島地区の教育論文・実践記録の募集がありました。十島村からは、毎年たくさんの先生方がこれに応募してきています。今年度は、68名の応募があり、応募率94.4パーセントでした。

論文は、「表現力の基礎を育てる学習指導のあり方」「緑化活動の活性化」「複式学級における子どもたちが楽しむ理科教育」「学校・家庭・地域が一体となった体力向上をめざして」等々日頃の教育実践に基づいた内容のあるものばかりでした。このような指導を加えていけば、児童・生徒に必ず力をつけられると確信したところです。

そして、その論文の審査会が先日行われ、出品総数278点から12点が見事特選に選ばれました。その中の1点は、教育論文・実践記録集「波動」に掲載されることになり、大変喜んでいただいております。このような先生方に指導を受けている児童・生徒が変わらないはずはないと思います。

その児童・生徒の皆さんが、がんばってくれました。第53回南日本作文コンクールの結果が、2月7日付けの南日本新聞に掲載していました。入賞者を見ると、諏訪之瀬島小の沖園たけはるさんが3席、2年生の濱崎りいとさん入選に入賞していました。



この作文コンクールは、県内のコンクールでも難しいといわれているものです。そして最も嬉しかったことは、諏訪之瀬島小学校が「椋鳩十賞」を受賞したこと

です。この賞は、野性味あふれるユニークな作品が目立つ小規模校に贈られるものです。このような力をつけてきている子どもたちは、大変すばらしいと思います。

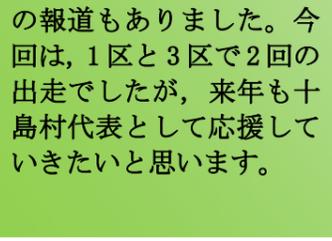
もう一つが、第32回県ゆめ立体・彫刻展の入賞です。県議会議長賞に諏訪之瀬島小2年生の濱崎りいとさん、鹿児島市立美術館賞に口之島小6年生の永吉美遥さん、南日本新聞者賞に口之島中3年生の長谷川海人さんの3人が特別賞を受賞しました。

今2つ紹介しましたが、その他のコンクールなどでも活躍が見られるところです。このように先生方ががんばることで、児童・生徒も大きな変容が見られるようになっていきます。「教師ががんばれば子どもが変わる。」ということを感じて、さらに研鑽を積んでいってもらいたいものだと思います。

祝 県下一周駅伝に片野田教諭が快走！！

2月18日(土)スタートした県下一周駅伝に、悪石島小学校の片野田隆紀教諭が出走しました。1日目の9区(枕崎市役所から赤石鉱山)10.2kmと3日目の10区(横川警察署から牧園麓)10.1kmを走りました。1日目の9区は、35分59秒で区間6位、3日目の10区は34分08秒で区間5位という好タイムで快走しました。

役場からも、1日目は、副村長や教育長ら5人が、3日目は、副村長、教育長、悪石島の坂元校長らが駆けつけ、家族や親戚と沿道から応援しました。片野田先生は、みんなの「頑張れ！」の大声援と横断幕に励まされ、大いに元気をもらったようでした。十島村からの選手としては初めてであり、とてもうれしく、誇りでもあります。「指宿チームの監督からも、ベテラン勢の中で筆頭の有望選手と期待されています。」との報道もありました。今回は、1区と3区で2回の出走でしたが、来年も十島村代表として応援していきたいと思っています。



宝 シリーズ この島に暮らして 「これからがんばりたいこと」 中之島小学校 3年 羽生 深理

ぼくは、がんばりたいことが2つあります。一つ目は、バドミントンです。なぜかという、去年初めて出て2回せんまでしか勝てなかったもので、もっといろいろな練習をしていかなければいけないなと思ったからです。たとえば、スマッシュを相手の足もとに打つことが



苦手なので、たくさん練習をしたいです。二つ目は、なわとびです。なわとびは、なわとび名人のまだ二重とびまでしかとべません。だから、体育の時間や休みの日などに練習し、全部の所にいんかんがつくようにしていきたいです。また、体力作りなどに取り組んで、むずかしいわざの三重とびやはやぶさをとべるようにしていきたいなと思います。



豊 南日本新聞「ひろば欄」H29.2.10掲載 「不便だけど自然にどっぷり」 口之島小・中学校 校長 知念 義光

十島村がどこにあるのかわからない人が多いのではないのでしょうか。私も2年前に口之島に来る前はそうでした。どの島にも1校ずつ小中併設の学校があります。各島の特色を生かしながら、鹿児島県本土の学校と変わらない教育を行っています。しかし、どの島も少子高齢化による児童生徒不足に困っています。



そのため十島村では、山海留学制度を導入し、児童生徒数確保に力を入れています。現在も数人の留学生が各島で頑張っています。島によって特色はありますが、次のような思いを持っている子どもたちに合っているかもしれません。「夏の海での体験、秋の満天の星など大自然を身近に感じたい。」「人間関係づくりに困っている。人と仲良くしたいけど、大人数だと苦手だと思っている。」「不自由な中で自分を鍛えたい。」

大型商業施設も娯楽施設もありません。ちょっと不便かもしれませんが、だからこそ、大自然にどっぷり漬かることができます。留学を考えてみてはどうでしょうか。

輝 平成 29 年 1 月 6 日南日本新聞掲載 「和太鼓をきっかけに」 中之島中学校 1年 平泉 翔大

ALTのリチャード先生が学校に来た。今度で2回目だが、前はあまり話をする事ができなかった。しかし、今回の授業では、今までより積極的に発表する僕がいた。それはたぶん、前日の和太鼓練習のおかげだ。

僕たちの学校では、小中学生全員で和太鼓演奏に取り組み、地域行事などで披露している。今回「太鼓でALTと交流しよう」という企画が立てられた。そして、僕がリチャード先生に曲を教える役になったのだ。英語が得意でもない僕が、ちゃんとたたき方を伝えられるかとても不安だった。しかし、リチャード先生は僕の説明を理解し、すぐにたたきことがで

きてびっくりした。「楽譜は世界共通なんだなあ。」とつくづく思った。日本語混じりだけど、先生と自然に会話している自分にも気付いた。先生は「日本に2年以上住んでいるが、こんな体験をしたのは初めてで、リズムが心に響いた。」と言ってくれた。



翌日、英語の授業では、勇気をもって自分からたくさん発表することができた。

十島村の小・中学校からのメッセージ 悪石島小学校 教諭 片野田 隆紀

悪石島に赴任して1年が過ぎようとしている。この1年で大きく変わったこと、それは「時間の流れ」ではないだろうか。昼休みに空を見上げて雲の動きを眺めたり、みんなで給食を楽しんだり、子どもと過ごす時間が格段に多くなった。

その中で、子どもは、兄弟への不満や進路への不安、将来への希望など様々な話題を自然と語りかけてくる。私はそれに対し、「へえ、そうなんだ。」とゆっくり頷くばかり。一通り話し終えると、満足したのだろう。すうっと友だちの所へ。何でもない普通のことだが、これが本来の学校に必要な「時間」なのではないかと思うことがある。

社会のグローバル化に伴い、「子どもにもコミュニケーション能力を」と行われた前回の指導要領改訂。今回の改訂では、更に学びの深まりを求め、「主体的な学び」に加え、協働を通した「対話的な学び」による思考力・判断力・表現力の育成(アクティブラーニング)を前面に掲げている。現代の子どもたちは大変である。しかし、その子どもたちを育てなければならぬ私たち教師自身もまた重大な責任を負い、その責任を果たすために日々研鑽を積み重ねなければならない。アクティブラーニングは、学習のための手段であり、それ自体を行うことが目的になってはいけない。

つまり、子どもたちと同様に、多くの情報(手段)を取り入れ、その中で思考・判断し、目の前の子どもに適したものを提供しなければならないのだ。そう思うと現代の教師は大変である。だからこそ考える。「今与えられた地々でできることをする。ただ一生懸命に…」と。

「教職員仲間であるあなた」への 私からのメッセージ

「今を楽しむ・みんなで楽しむ・一生懸命楽しむ。」ことが一番大切だと思います。先のことを考えても仕方ありません。この十島村で「今しかできないこと」を楽しみましょう。